



## 北斗

ほくと

伝えたい言葉

考えなさい。調査し、探究し、問い合わせ、熟考するのです。

ウォルト・ディズニー

令和7年12月11日発行

## 公開研究会で附属中学校を県内外に発信しました 公開特集号



12月4日に、本年度の公開研究会を実施しました。昨年度も同時期に公開研究会を実施し、その後、1年間をかけて改善してきた研究内容、実践を発信するよい機会となりました。

当日は、県内外から約250名の方が参加され、全体会、公開授業、教科別協議会、生徒発表、大学教員の説明等を熱心に研修に臨まれていました。

公開授業Ⅰでは、国語科、社会科、数学科、理科、英語科、技術・家庭科（家庭）、音楽科、美術科、保健体育科の9教科、公開授業Ⅱでは、学級活動、総合的な学習の時間、道徳科の3教科の授業を参観していただきました。

それぞれの公開授業の直後には、教科別協議会の時間を設定しました。本校の職員が授業の意図を説明したり、参加者の皆様から意見や感想をいただいたり、県教育委員会から来ていただいた12名の指導主事の皆様から、授業や研究に係る助言や今後の参考にしたい国の教育施策を説明していただきました。協議等を通して、これから教育活動に生かしていくことができる会となりました。

生徒発表は昼食前の時間帯で2クール（2回）実施され、希望する生徒（全校で約20グループ45名）が、これまで課題意識をもち探究してきたことを模造紙等にまとめ、プレゼンをしてくれました。聴衆の前で堂々と自分の考えを伝え、探究に関する質問に対しても根拠を示しながら適切に答える生徒の姿を目の当たりにした参加者からは、事後アンケートで、以下のようなコメントをいただきました。

## 県立大宮高等学校から参加されたI先生より

身近なこと、自ら経験したことを楽しそうに、丁寧に、発表してくれていました。活き活きとしていましたね。やはり、探究的な活動は、はじまりはこんな風に楽しく、活き活きとした活動、そして達成感を持てるものがいいですね。今日発表してくれた生徒さん達は、今後もあらゆる活動で探究的に考え、行動していくことでしょう。楽しみですね。

また、PBAODについての説明を宮崎大学の椋木香子教授にしていただきました。具体的には、広島県の比治山大学の森川敦子教授らが提案した「対人的適応感を高める道徳教育プログラム」を本校で本年度から取り入れたこと、教育課程の編成上、教員の窮屈さ（多忙感）を感じることが課題であるが、学校の実態に応じて、見直しはできるという話でした。

この話を受けて、公開研究会が終了した後の午後4時30分から、学級経営について学びを深めたい有志の皆様と、本校、附属学校園教員、大学教員で、30分間の協議会を行いました。本年度、学期のはじめに、SST（ソーシャルスキルトレーニング）、道徳、学級活動の時間をまとめて計画し、実践した成果や課題についての説明を本校の学級担任が行った後、今後の取組の可能性について意見交換を行いました。質問や実践の手応えなど、グループごとに話に広がりました。本校の児玉剛PTA会長、宮崎大学の盛満弥准教授、宮崎県教育委員会の加藤恭子指導主事からまとめのコメントもあり、これから取組のさらなる充実を期待したところです。会に参加していただいた新地辰朗統括長からも、以下のようなコメントをいただきました。

附属の先生方、公立の先生方、大学の研究者、指導主事などそれぞれの立場から、語り、考え合える良い機会になったように思います。亀井先生、参加者の個性を發揮させるコーディネート素晴らしかったです、勉強になりました。

## 【公開研究会のスナップ】



公開研究会は、PTAや大学の皆様の御支援があり、無事終わりました。ありがとうございました。